【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成19年4月12日(2007.4.12)

【公表番号】特表2006-517232(P2006-517232A)
【公表日】平成18年7月20日(2006.7.20)
【年通号数】公開・登録公報2006-028
【出願番号】特願2006-503445(P2006-503445)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　31/137　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　25/14　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　31/137
Ａ６１Ｐ　25/14

【手続補正書】
【提出日】平成19年2月14日(2007.2.14)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
一日有効量のアンフェタミンを塩基および／または塩形態で含み、そこから一日のより遅い時間帯に放出されるｌ－アンフェタミンのｄ－アンフェタミンに対するモル比が、一日のより早い時間帯にそこから放出される比率よりも高いものである、薬学的組み合わせ。
【請求項２】
該より早い時間帯が当日のほぼ１：００ｐｍまでであり、該より遅い時間帯がそれ以後である、請求項１記載の薬学的組み合わせ。
【請求項３】
該より早い時間帯に放出される該アンフェタミンが、実質的にｄ－アンフェタミンのみ、ラセミ体アンフェタミン、またはｌ－アンフェタミンよりもｄ－アンフェタミンを多く有するｄ－およびｌ－アンフェタミンの混合物を含む、請求項１記載の薬学的組み合わせ。
【請求項４】
該より早い時間帯に放出されるｄ－アンフェタミンのｌ－アンフェタミンに対するモル比が、約４／１から約２／１である、請求項１記載の薬学的組み合わせ。
【請求項５】
該より早い時間帯に放出されるｄ－アンフェタミンのｌ－アンフェタミンに対する比率が１／１未満である、請求項１記載の薬学的組み合わせ。
【請求項６】
該早い時間帯に実質的にｄ－アンフェタミンのみが放出される、請求項１記載の薬学的組み合わせ。
【請求項７】
該より早い時間帯に放出される該アンフェタミンが、ｄ－アンフェタミンよりもｌ－アンフェタミンを多く有するｄ－およびｌ－アンフェタミンを含む、請求項１記載の薬学的組み合わせ。
【請求項８】

該より遅い時間帯に放出される該アンフェタミンが、実質的にｌ－アンフェタミンのみ、ラセミ体アンフェタミン、またはｄ－アンフェタミンよりもｌ－アンフェタミンを多く有するｄ－およびｌ－アンフェタミンの混合物を含む、請求項１記載の薬学的組み合わせ。

【請求項９】

該より遅い時間帯に放出される該アンフェタミンが、ｄ－アンフェタミンよりもｌ－アンフェタミンを多く有するｄ－およびｌ－アンフェタミンの混合物を含む、請求項１記載の薬学的組み合わせ。

【請求項１０】

該より遅い時間帯に放出されるｌ－アンフェタミンのｄ－アンフェタミンに対するモル比が、約２／１から約６／１である、請求項１記載の薬学的組み合わせ。

【請求項１１】

該より遅い時間帯に実質的にｌ－アンフェタミンのみが放出される、請求項１記載の薬学的組み合わせ。

【請求項１２】

一日あたりの総アンフェタミン投与量が約１から約２００mgである、請求項１記載の薬学的組み合わせ。

【請求項１３】

２個の別々の経口投与剤形から成り、一方は該より早い時間帯におけるアンフェタミン放出を提供するために投与すべきものとされ、他方が該より遅い時間帯におけるアンフェタミン放出を提供するために投与すべきものとされている、請求項１記載の薬学的組み合わせ。

【請求項１４】

該より早い時間帯およびより遅い時間帯の両方におけるアンフェタミン放出を提供するための、単一の経口投与剤形から成る、請求項１記載の薬学的組み合わせ。

【請求項１５】

該より早い時間帯にｄ－アンフェタミンの即時放出を提供する投与剤形から成る、請求項１記載の薬学的組み合わせ。

【請求項１６】

患者のＡＤＨＤの処置用薬剤の製造における有効量のアンフェタミンのｌ－およびｄ－異性体の使用であって、アンフェタミンのｌ－およびｄ－異性体は各々独立して遊離塩基および／または塩形態であり、そして

一日のより遅い時間帯において該薬剤から放出されるｌ－アンフェタミンのｄ－アンフェタミンに対するモル比が一日のより早い時間帯において該薬剤から放出される該モル比より高く；そして

一日あたりに投与するｌ－異性体の総量のｄ－異性体の総量に対するモル比が１：３より大きく、

ここで、一日のより遅い時間帯は、一日のより早い時間帯の少なくとも約１時間後である、使用。

【請求項１７】

薬剤を個々に異なる時間に投与するか、または一度に１種の段階的放出投与剤形で投与する、請求項１６記載の使用。

【請求項１８】

薬剤を、即時放出かまたはパルス放出投与剤形および／または持続性または制御放出投与剤形のいずれかである１個またはそれ以上の投与剤形で投与する、請求項１６記載の使用。

【請求項１９】

該持続性または制御放出投与剤形(複数もある)がｌ異性体を含む、請求項１８記載の使用。

【請求項２０】

アンフェタミンの２製剤を患者に一日に投与する方法で、初めの製剤は約１：３のｌ異性体に対するｄ異性体比を有するかまたはｄ異性体のみを含み、より遅い時間帯の製剤は約１：１またはそれ以上のｌ異性体に対するｄ異性体比を有するかまたはｌ異性体のみを含む、請求項１６記載の使用。

【請求項２１】

該２回目の製剤がｌ異性体のみを含む、請求項２０記載の使用。

【請求項２２】

薬剤を個々に異なる時間帯に投与するか、または、一度に１種の段階的放出投与剤形で投与する、請求項１記載の薬学的組み合わせ。

【請求項２３】

薬剤を、即時放出かまたはパルス放出投与剤形および／または持続性または制御放出投与剤形のいずれかである１個またはそれ以上の投与剤形で投与する、請求項１記載の薬学的組み合わせ。

【請求項２４】

該持続性または制御放出投与剤形(複数もある)がｌ異性体を含む、請求項２３記載の薬学的組み合わせ。

【請求項２５】

アンフェタミンの２製剤を患者に一日に投与し、初めの製剤は約１：３のｌ異性体に対するｄ異性体比を有するかまたはｄ異性体のみを含み、より遅い時間帯の製剤は約１：１またはそれ以上のｌ異性体に対するｄ異性体比を有するかまたはｌ異性体のみを含む、請求項１記載の薬学的組み合わせ。

【請求項２６】

該２回目の製剤がｌ異性体のみを含む、請求項２５記載の薬学的組み合わせ。

【請求項２７】

患者のＡＤＨＤの処置のための、請求項１記載の薬学的組み合わせの使用。

【請求項２８】

ヒトのＡＤＨＤの処置のための、請求項１記載の薬学的組み合わせの使用であって、ｌ－異性体による一日のより遅い時間帯における不注意(inattentiveness)の処置の効果が、対応するモル用量のｄ－アンフェタミンと同程度であり、かつ睡眠障害および／または食物摂取量減少の副作用が少ない、使用。